RS ウイルスワクチン『アブリスボ』について

RS ウイルス感染症とは？

RS ウイルスによって引き起こされる感染症です。生まれたばかりの赤ちゃんから高齢者まで感染します。とくに生まれて 6 か月以内の赤ちゃんの免疫は未熟で、RS ウイルスに感染すると重症化することがあります。重症化した場合には酸素の投与や点滴による治療のため入院する必要があります。乳児の赤ちゃんの入院は、生まれたばかりの赤ちゃんに点滴や採血をするため、可哀想に思ったり、心配もかなりされることでしょう。加えて、入院には親御さんの付き添いが必須のため、親御さん達もお仕事を休む必要が出てきます。

RS ウイルス感染症の症状は、発熱や咳嗽、ゼーゼーという喘鳴、呼吸困難などがあります。RS ウイルスに感染した 70%の乳幼児は軽症ですが、30%の乳幼児が重症化し、喘息などの後遺症の原因になるといわれています。また、RS ウイルスの特効薬はありません。

母子免疫とは？

赤ちゃんは、生後数か月の間は抗体（細菌やウイルスと戦って排除してくれるもの）をつくることができないため、免疫機能が未熟であるといわれています。一方で、胎盤やへその緒を通じてお母さんから抗体の一部を受け取って生まれてくることもわかっています。そのおかげで、未熟ではありますが、小さい体で細菌やウイルスと戦うことができるのです。これを母子免疫といいます。

妊婦さんに接種する RS ウイルスワクチン「アブリスボ」

現在は RS ウイルス感染症の重症化を防ぐ目的で開発された、シナジスというワクチンがありますが、保険適応となる対象は限られています。そのような中で開発されたのが、この「アブリスボ」です。妊婦さんに接種してもらうことで、お腹の中の赤ちゃんに効くワクチンということです。赤ちゃんが RS ウイルスに対する免疫をもった状態で生まれてくることができ、重症化することを減らすことができます。
具体的には

- 効　　果：妊婦さんへの接種で生後 90 日以内の乳児の入院率が 80%減少し、発症予防効果も約 50%が期待できます。
- 安 全 性：観察期間中の母体と 2 歳までの乳幼児のワクチンが原因と考えられる重篤な合併症はありませんでした。
- 副 作 用：注射部位の痛み（40%）、疲労（46%）などがありますが、大部分は数日で改善します。
- 接種方法：妊娠 24 週～妊娠 36 週の間に、1 回投与するのみです。

当院での接種について

◆ 接種時期：当院では妊娠 32 週～妊娠 34 週での接種をお勧めしています
※接種後 14 日以内に出産した場合、移行抗体が十分でない可能性があり、有効性は確率していません。

◆ 価　　格：29,000 円（税込）

◆ 接種予約：妊婦健診時またはお電話で、接種希望日の 1 週間前までにご予約をお願いします